

# 平成15年12月期 第1四半期業績の概況(連結・個別)

平成15年5月7日

上場会社名 株式会社アサツー ディ・ケイ (コード番号: 9747 東証第一部)

(URL <http://www.adk.jp>)

問合せ先 代表者役職・取締役社長 長 沼 孝一郎  
責任者役職・特別顧問 鎌 徳 弥 TEL: (03)3547-2028

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 無  
(最近事業年度)における認識の方法との相違の有無

## 2. 平成15年12月期第1四半期連結業績の概況(平成15年1月1日~平成15年3月31日)

(1)業績の状況 (百万円未満切捨)

	売上高	売上総利益	営業利益
	百万円	百万円	百万円
15年12月期第1四半期	98,441	11,467	1,834
(参考)14年12月期	373,899	41,529	3,798

(注)当社グループでは当第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、平成14年12月期第1四半期の業績及び対前年四半期増減率につきましては、記載を省略しております。

### [連結業績に関する補足説明]

当第1四半期のが国経済は、株安と国内需要の低迷、イラク戦争を始めとした不安定な国際関係による世界経済の減速などの影響により、厳しい状況が続きました。景気対策が手詰まり気味となる中、企業の広告出稿や個人消費は一層選択的となり、全般に低調のまま推移しました。

#### (広告業セグメント)

このような経営環境の中、当社グループは「全員経営」の企業理念のもと、ニュー・ウェーブ・エージェンシーを目指して積極的に顧客の広告ニーズを開拓した結果、「金融・保険」「食品」「趣味・スポーツ」などの業種の売上が伸張し、同セグメントの外部顧客に対する連結売上高は958億85百万円となりました。売上高増加に伴い売上総利益が改善し、昨年度提出会社で実施いたしました特別転進支援措置による人件費の抑制等が奏効し、当初の計画を上回る15億87百万円の営業利益(セグメント間消去前)をあげることができました。

#### (その他の事業セグメント)

個人消費の低迷等のため、書籍の出版や販売はやや伸び悩み、同セグメントの外部顧客に対する連結売上高は25億55百万円、営業利益は2億48百万円(セグメント間消去前)となりました。

以上の結果、連結売上高は984億41百万円、総利益は114億67百万円、営業利益は18億34百万円となりました。

## (2)当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

特に記載すべき事項はありません。

## (3)平成15年12月期の連結業績予想(平成15年1月1日~平成15年12月31日)

当第1四半期は順調でしたが、今後の当社グループを巡る経営環境には一層厳しいものが予想され、当中間期及び通期の業績予想は平成15年2月21日発表の当初予想より変更ない見通しであります。

## 3. 平成15年12月期第1四半期個別業績の概況(平成15年1月1日~平成15年3月31日)

(1)業績の状況 (百万円未満切捨)

	売上高	売上総利益	営業利益
	百万円	百万円	百万円
15年12月期第1四半期	89,123	9,177	1,521
(参考)14年12月期	334,915	32,005	2,419

(注)当社では当第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、平成14年12月期第1四半期の業績及び対前年四半期増減率につきましては、記載を省略しております。

## (2)平成15年12月期の個別業績予想(平成15年1月1日~平成15年12月31日)

当第1四半期は順調でしたが、今後の当社を巡る経営環境には一層厳しいものが予想され、当中間期及び通期の業績予想は平成15年2月21日発表の当初予想より変更ない見通しであります。

以上